



## 冬頭裕子さんが 名古屋市文化振興事業団 芸術創造賞受賞

高等学校卒業生(49年度卒)で、大学1期生(文学部国文学科53年度卒)の冬頭裕子さんが、長年にわたり名古屋市芸術文化の向上に尽くしたとして、名古屋市文化振興事業団の第18回芸術創造賞を受賞。表彰式が6月14日、同事業団で行われました。

冬頭さんは本学在学中に演劇の世界に足を踏み入れ、以後、数々のオハラやバレエ公演の舞台監督をつとめてきました。代表作は名古屋市民会館主催事業公演のオペラ「トスカ」、名古屋市芸術文化センターのこけら落とし公演「マクベス」など。

同事業団からは第2回奨励賞も受賞。その後、ロンドンに渡って本格的な舞台の勉強をします。

帰国後、本場で学んだことが日本では通用しないというジレンマに陥りますが、逆にしがらみがない分、怖いものなしで舞台の世界へ飛び込んでいったとか。

名古屋で女性の舞台監督はわずか2人。しかも芸大出身でないというのは珍しく、

「業界ではすいぶん大切にしてもらいました。著名な先生方のご自宅にまで押しかけて質問を重ねたにもかかわらず、大変気持ちよく懇切丁寧にアドバイスをいただくこともあって、恵まれていたと思います。」

冬頭さんは体が弱かったこともあり、名古屋を基盤に活動してきたことが現在の自分を築くのにプラスになっていると振り返ります。



冬頭裕子さん

「舞台監督の仕事に興味のある人がいたら、いつでも相談に乗るので声をかけてください。この仕事は何か起ったときに確かな判断ができ、すぐ対処できる人が向いていると思います。」



島田修三教授

## 島田修三教授が 寺山修司短歌賞 受賞

文化創造学部の島田修三教授の第4歌集「シジフオスの朝」が、中堅男性歌人を対象にした第7回寺山修司短歌賞を受賞。5月24日、東京の如水会館で授賞式が行われました。

「シジフオスの朝」には平成8年から13年までの短歌500首を収録。職場や研究生活など普段の日常生活や人間関係、内外の事件などが、壮年世代のペーソスや苦い「モノ」を織り込んで詠まれています。

島田教授は20代前半から短歌

結社「まひる野」(本学文化創造学部篠弘学部長が代表)に所属し、教育・研究活動のかたわら30代から本格的に創作活動に入りました。当時、横浜から名古屋に移り住み、習慣や文化などの違いが一つの刺激となり、表現活動へ昇華されたといっています。

島田教授は平成4年には名古屋市民会館賞も受賞。後輩の指導にも積極的に当たっています。名古屋を代表する文化人の1人として、さらに今後の活躍を期待したいものです。



## 春と夏の オープンキャンパスに 多数の来場者



模擬授業



学科相談コーナー

本学志望の受験生を対象に大学の施設等を開放する「オープンキャンパス」が、長久手・星が丘キャンパスで開催されました。

春は5月11日に来場者は391人。夏は8月4日で2051人が来場。東海4県だけでなく、北は北海道から南は鹿児島県まで全国各地から来場され、本学への関心の高さがうかがえました。

夏のオープンキャンパスは、長久手キャンパスで全体説明会を計5回開催。学科説明と入試説明の内容に、熱心に耳を傾ける受験生の姿が印象的でした。星が丘キャンパスを結ぶシャトルバスも満員で、文化創造学部には約700人が押し寄せる盛況ぶりでした。

オープンキャンパス当日は、それぞれのキャンパス内の施設が自由に見学できるように開放。長久手キャンパスの情報科学センターやソシオメディアセンター、星が丘キャンパスのマルチメディアセンターなどで実際にプロジェクターやスタジオオメガに触れてみることもでき、その充実ぶりにあちこちから感嘆の声があがっていました。

「模擬授業」は、全学科・専攻で開講され、立ち見が出る学科もいくつかありました。1100と複数の模擬授業をかけたことで受ける参加者は皆真剣そのもの。志望学科・専攻の決定には大いに役立ちました。

「在学生によるキャンパスツアー紹介」では、就職・留学・クラブ・アルバイトの4つの視点による在学生就職については、現在NHKの「リポーター」として活躍中のOG(の)のさまざまな体験談に、近い将来の自分を重ねた人も多かったのではないのでしょうか。

秋のオープンキャンパスは11月4日に大学祭と同時開催します。受験生の皆さんの来場をお待ちしています。



## 多くの運動部員が インターハイ、 国体に出場

今年も多くの部が愛知県予選や東海大会を勝ち抜いて、全国大会出場を果たしました。茨城で行われたインターハイ全国大会(8月1日〜20日)と、秋の高知国体

(10月26日)への出場権を得た生徒を紹介します。

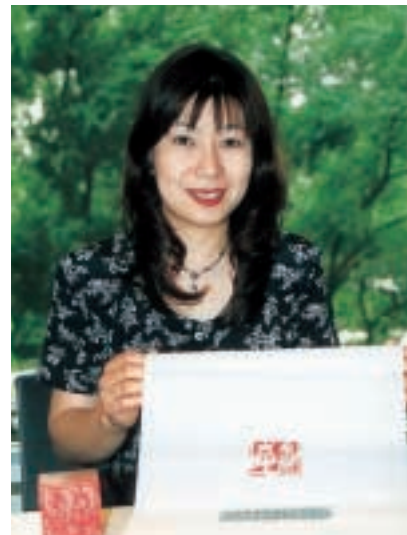
ソフトテニス部は、3年の榎原明さん、橋爪麻衣子さん、武田希美さん、飯田治美さん、2年の日馬聡美さん、薄良美さんの6人がインターハイへ出場しました。

バドミントン部は、個人戦ダブルスで3年の間瀬さやかさん、土田紘子さん組、同シングルスで間瀬さんがインターハイへ出場。

陸上部は、6月に福岡で開かれた日本ジュニア選手権で見事全国3位の好成績を収めた2年の湯田友美さんがインターハイに出場。本校の伝統あるクラブの一つ、水泳部からは、3年の若杉あやさ

ん、宮治礼奈さん、落合咲子さん、2年の竹迫麻貴さん、小川美由紀さん、1年の白井奈奈さん、外山恵里さん、落合幾子さんの8人がインターハイ全国大会に出場。本校から秋の国体に出場する生徒を紹介します。

ソフトボール部の阿部裕美さん、馬淵朝子さん以上2年、陸上部の湯田友美さん、2年、ソフトテニス部の飯田治美さん、3年、バドミントン部の間瀬さやかさん、3年、水泳部の竹迫麻貴さん、2年、白井奈奈さん、外山恵里さん、落合幾子さん以上1年の9人です。皆さんの活躍を期待しています。



小坂克子さん



## 小坂克子さんが 中日書道展で 最高賞受賞

家「荘子の言葉、去善而自善」(善の意識をなくしてこそ、おのずと善の立場に立てるの意)を彫ったもの。昨年の日展にも初入選しており、今後ますますの活躍が期待されます。

## 2002 愛知県私立中学校進学フェア開催



本校を含む県内の私立中学校19校が参加し、8月6日(火)・7日(水)の2日間、松坂屋百貨店南館マツザカヤホールで私立中学校の進学フェアが開催されました。今回は過去2回の経験を踏まえ、時期・内容・会場などを一新。暑い時期にも関わらず各校のブースには多くの保護者や児童が詰めかけ、入場者数は2日間で2770人と、盛況のうちに幕を閉じました。今回は小学5年生以下の

児童が多く参加し、「初めてこういう会に参加した」という声も多数聞かれました。進学フェアは、学校5日制を含む新学習指導要領による教育課程が開始されている中、私立中学校の教育の現状を知ってもらい、学校の選択の幅を広げてもらう目的で開催。今年も、私学教育の自由さ、内容の先進性を多くの人に知っていただくよい機会となりました。



第26回大会。右が野田早弥香さん

## 野田早弥香さん 全日本バトントワリング選手権大会で2年連続優勝



コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科2年生の野田早弥香さんが、第27回全日本バトントワリング選手権大会で、昨年に続き2年連続で入賞種目のグランドチャンピオンに輝きました。同大会には小学生、中学生、高校生、大学生・一般の4部門があり、各部門の優勝者の中から選ばれるのがグランドチャンピオン。また世界バトントワリング選手権大会でも3回金メダルを獲得し、今や野田さんは日本を代表するバトントワラーと言えます。

野田さんがバトントワリングを始めたのはテレビの「コナツさん」にあこがれた4歳の時。本学園の卒業生、志水千代子さんが主宰する名古屋市内のクラブ「ナゴヤバトントワラーズ」に入り、やはり本学園の卒業生、服部美佐さんの指導を受け、才能を伸ばしてきました。1日の練習量は平日で4時間、休日は8時間にも。その頑張りを支えているのは、「表現を重視しているので、自分を出せるというところがいいですね」という競技の魅力だとか。日本でのバトントワリングの愛好家は百万人もいそうと、野田さんは子どもたちにバトントワリングの楽しさを伝えたいと、イベントなどで指導に当たることにも。また、コナツの資格も取得中でさらに上の資格を目指して頑張っている毎日です。今後もバトントワリングの魅力を多くの人に伝え、素晴らしい成績を残してほしいものです。



## 開発途上国の女性から学ぶこと 進路講演会開催



「ボランティアははじめの一步」で、グループの発表会

6月11日(火)午後、本校の進路指導部が企画する「進路講演会」が、高2、3年生全員を対象に開かれました。今年の講師は、名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学教授の青山温子先生。「変える、変わる、変わらな」と題し、アフリカ訪問の経験を中心に、開発途上国の女性から何を学ぶかというお話をさせていただきました。本校の10年、20年後の人間を創るという教育目標に近うた有意義な講演は、多くの生徒に感銘を与えました。

## 大宮久子さんが 全日本シニアソフトテニス選手権大会で優勝



高等学校 48年度卒(短期大学卒業生(家政学科50年度卒))の大宮久子さんが、8月30日・9月1日に神戸総合運動公園テニスコートなど3会場で開催された、第6回全日本シニアソフトテニス選手権大会(混合45の部)全国から69組出場)において、見事優勝しました。大宮さんは高校で軟式庭球部に所属して活躍。その後しばらくテニスとは遠ざかっていましたが、子育てが一段落した10年ほど前から再び練習を開始。今回、優勝という大きな成果を挙げる事ができて、本当に嬉しいと喜んでいきます。



左が大宮久子さん

健康と若さを維持するために、これからもテニスを長く続けていきたいとのことでした。



## ASUGAN主催で「ボランティアはじめの一步」



原あすかさん

4月27日、星が丘キャンパス、グロバルユースサービスティ(GYSD)ボランティアはじめの一步」が開かれました。GYSDはアメリカで始まった、青年が地域社会に貢献する活動を祝う「日」のこと。今年では世界100か国が参加。この一環として、地域に根ざしながら国際協力を目指す同好会ASUGAN(愛知淑徳学園グローバルアクションネットワーク)が主催したイベントです。本学では多元文化専攻の榎田勝利教授がボランティア活動の推進に力を入れており、1998年の長野冬季オリンピックでは約3万5000人のボランティアのコーディネート役を務めました。そ

のとき愛知淑徳大学から参加した学生40人がASUGANを発足させます。冬季五輪後、榎田教授は青年のボランティア大会の開催を提言。2001年がボランティア国際年ということもあり、ボランティアの世界的組織であるIAVE(ボランティア活動推進国際協議会)のケン・アレックス会長(本学のアメリカでのインターシップの世話役でもあります)に呼びかけ、昨年、松本と東京で青年ボランティア世界会議を開催しました。会議では世界各国から300人を超える参加者がボランティアについて意見交換しましたが、本大学の学生30人も実行委員として活躍

しました。「学生のボランティアはキャンパス内の活動が多いのですが、地域と交流、貢献することが求められています。徐々に根を下ろしていき、地域から全国に、さらに世界の国々とネットワークを広げていきたいですね」と榎田先生。当日のイベントは、他大学のボランティアリーダーなども参加し、パネルディスカッションやグループ発表などで盛り上がりました。実行委員の原あすかさん(英文学科4年)は、名古屋地域でネットワーク作りができたかと思うているので、今日がその第一歩になるといいますね」と手応えを感じていました。